

上峰町文化財調査報告書第42集

三上遺跡 8 区

平成26年度共同住宅建設工事に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書

2016年3月

上峰町教育委員会

三上遺跡 8 区

平成26年度共同住宅建設工事に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書



2016年3月

上峰町教育委員会

序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和 40 年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道 34 号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この 20 余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、共同住宅の建設に先立ち、上峰町教育委員会が実施した三上遺跡の埋蔵文化財発掘調査事業の報告書であります。今回の発掘調査では、中世の土壌などが検出され、当時の人々の暮らしを考えるうえで貴重な資料を得ることができました。この報告書を学術資料として、また住民の共有の財産としての文化財を大切に保存していくための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

上峰町教育委員会

教育長 矢動丸 壽 之

例 言

1. 本書は、共同住宅建設に先立ち、開発事業主真崎信行氏の委託を受け、上峰町教育委員会が発掘調査を実施した佐賀県三養基郡上峰町大字坊所3180-3、3181-1に所在する三上遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、開発予定地1,040㎡のうち地盤表層改良工が実施される建物部分370㎡について、上峰町教育委員会が実施した。
3. 調査区の名称は三上遺跡内で8カ所目の調査であるため、三上遺跡8区とした。
4. 現地での発掘調査は平成26年10月17日から10月30日まで行った。調査後の出土遺物・記録類の整理作業は平成27年度に上峰町教育委員会が行った。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員及び整理作業員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影は、調査員が行った。
7. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
8. 本書の執筆・編集は、原田大介、伊達有彩が行った。
9. 今回の調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡 例

1. 三上遺跡の略号は「MKM」である。
2. 遺構番号に記した2文字のアルファベットは、遺構の種別を表す。
SK……土壌 SD……溝跡・溝状遺構
3. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
4. 表中の数値に付した記号で、()は推定値を、※は部分値を表す。
5. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっている。本書では現在の市町村名のあとに()で旧市町村名を記している。

調査組織

調査主体	上峰町教育委員会			
調査事務局	総括	矢動丸 壽之	上峰町教育委員会	教育長
	事務主任	原田 大介	〃	文化課長
	経費執行	原田 大介	〃	文化課長
調査組織	調査員	原田 大介	〃	文化課長
		伊達 有彩	〃	文化課文化係
調査指導	佐賀県教育委員会			

発掘作業参加者

稲員 千鶴子・江副 愛子・大庭 始・嶋山 美千代・杉谷 勇・杉谷 嘉泰・田中 一馬・谷野 正一・
堤 脩次郎・濱 富助・宮崎 正秋・牟田 康孝・矢動丸 松美・山田 富士夫・江崎 愛子・島 美保子

整理作業参加者

江崎 愛子・島 美保子（平成 27 年度 整理作業員）

目次

序	
例言・凡例	
調査組織・発掘作業参加者・整理作業参加者	
I. 遺跡の位置と環境	1
1. 三上遺跡の位置	1
2. 歴史的環境	1
II. 調査の概要	6
1. 調査に至る経緯	6
2. 調査の経過と方法	6
III. 遺跡の概要	7
IV. 遺構	7
V. 遺物	7
VI. まとめ	11

挿図目次

Fig. 1 三上遺跡 8 区の位置及び周辺遺跡 (1/50,000)	3
2 三上遺跡 8 区 周辺地形図及び調査区位置図 (1/5,000)	8
3 三上遺跡 8 区 調査区配置図及び遺構配置図 (1/200)	9
4 三上遺跡 8 区 遺構実測図	10

表目次

Tab. 1 三上遺跡 8 区 出土土壌一覧表	10
報告書抄録	

図版目次

PL. 1-1 三上遺跡 8 区 調査区遠景	13
1-2 三上遺跡 8 区 A 区遺構検出状況	13
2-1 三上遺跡 8 区 B 区遺構検出状況	14
2-2 三上遺跡 8 区 調査終了後	14
3-1 SK-801	15
3-2 SK-801 土層断面	15
3-3 SK-802	15
3-4 SK-803	15
3-5 SK-804	15
3-6 SK-805	15
3-7 SK-806	15
3-7 SK-807	15

I. 遺跡の位置と環境

1. 三上遺跡の位置 (Fig. 1)

三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町上米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8m～16m 付近に位置している。

三上遺跡が所在する佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する更新世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する更新世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に更新世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地域を中心に遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した鳥栖市安永田遺跡¹⁾、約400基の甕棺墓が検出されたみやき町（旧中原町）姫方遺跡²⁾、埋納された12本の銅矛を出土したみやき町（旧北茂安町）検見谷遺跡³⁾、甕棺墓から舶載鏡を出土した吉野ヶ里町（旧東脊振村）三津永田遺跡⁴⁾、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼市（旧神埼町）・吉野ヶ里町（旧三田川町・旧東脊振村）に跨る吉野ヶ里遺跡⁵⁾など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である⁶⁾。周辺地域では、吉野ヶ里町（旧三田川町）との境界に位置する二塚山丘陵の吉野ヶ里町（旧三田川町）側からナイフ形石器の採取例が報告されている⁷⁾。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業

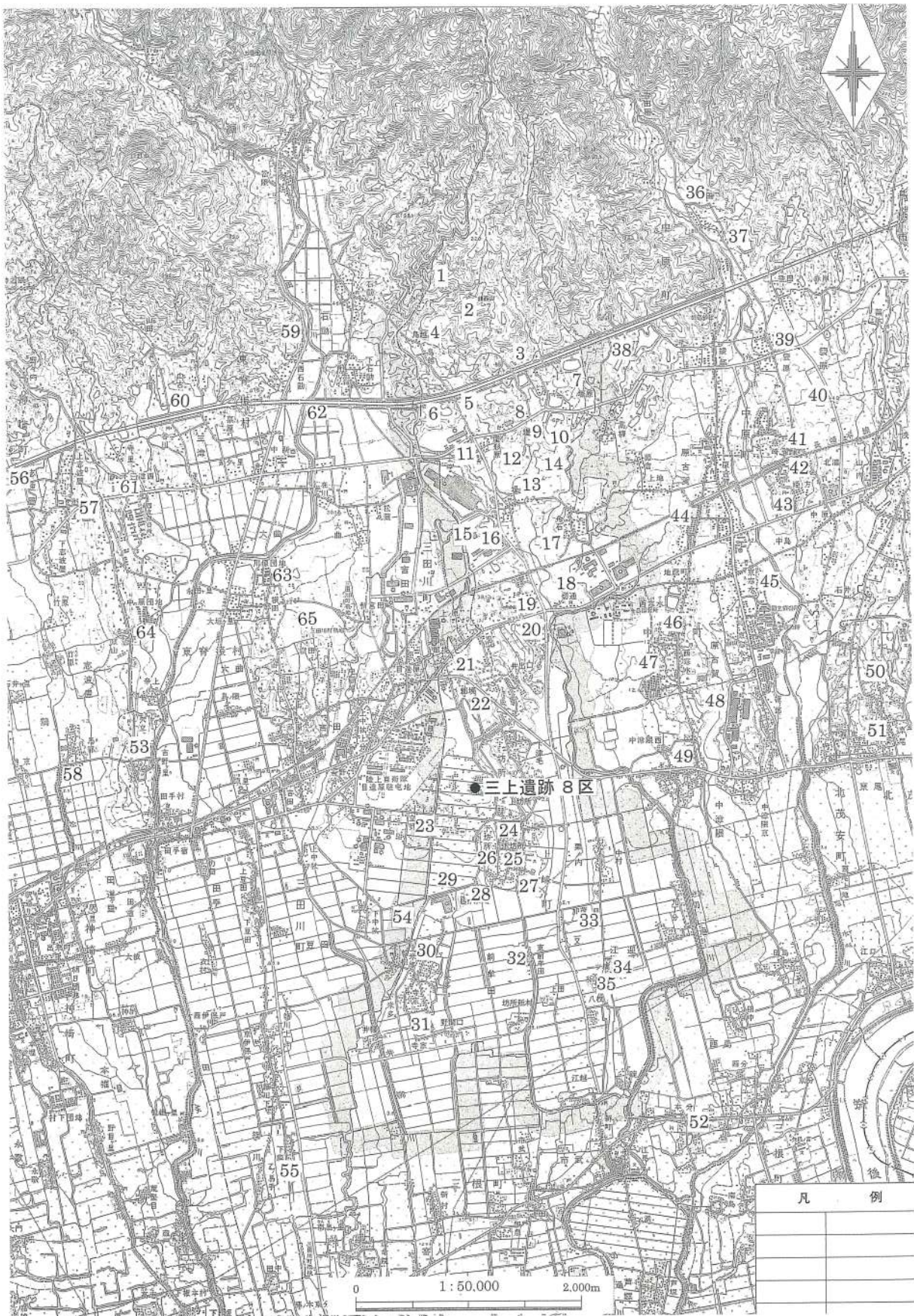
に伴う八藤遺跡下層における阿蘇4火砕流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている始良・Tn火山灰(AT)の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている⁸⁾。

縄文時代になると、みやき町(旧中原町)香田遺跡⁹⁾や吉野ヶ里町(旧東脊振村)戦場ヶ谷遺跡¹⁰⁾などが出現する。町内においても、これまでも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区¹¹⁾、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査¹²⁾において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥奴国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、甕棺墓から細形銅剣や貝釧を出土した切通遺跡¹³⁾、吉野ヶ里町(旧東脊振村・旧三田川町)に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い甕棺墓、土壙墓など約300基が調査され、舶載鏡、小型倣製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡¹⁴⁾、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡¹⁵⁾、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡¹⁶⁾などが知られている。また、近年の上峰北部県営農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡¹⁷⁾、船石南遺跡¹⁸⁾、八藤遺跡¹⁹⁾から住居址や甕棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期にはみやき町(旧中原町)姫方原遺跡²⁰⁾、上峰町五本谷遺跡²¹⁾などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀市大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市剣塚古墳²²⁾、みやき町(旧中原町)姫方古墳²³⁾、上峰町西南部から吉野ヶ里町(旧三田川町)に跨る目達原古墳群²⁴⁾、神崎市(旧神埼町)伊勢塚古墳²⁵⁾、佐賀市銚子塚古墳²⁶⁾、佐賀市大和町船塚古墳²⁷⁾など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保・鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から吉野ヶ里町(旧三田川町)東部の目達原一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚(現在、陵墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄)はじめ無名塚、大塚、古稻荷塚、稲荷塚などの前方後円墳ほかからなる目達原古墳群²⁸⁾が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄剣、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1~3号墳²⁹⁾が知られている。古墳時代後期の古墳



- | | | | | | |
|------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 上峰町 | 12 堤六本谷遺跡 | 24 坊所城跡 | 中原町 | 47 西寒水遺跡 | 神埼町 |
| 1 奥の院古墳群 | 13 堤土塁跡 | 25 榎寺遺跡 | 36 山田蔵骨器出土地 | 48 北茂安町 | 56 志波屋六本松遺跡 |
| 2 鎮西山山城 | 14 八藤遺跡 | 26 杉寺遺跡 | 37 山田古墳群 | 49 宝満谷遺跡 | 57 伊勢塚前方後円墳 |
| 3 二本柳古墳群 | 15 二塚山遺跡 | 27 坊所二本松遺跡 | 38 大塚古墳 | 50 宝満宮前方後円墳 | 58 馬郡遺跡 |
| 4 鎮西山南麓古墳群 | 16 五本谷遺跡 | 28 坊所三本松遺跡 | 39 八幡社遺跡 | 51 大塚古墳 | 東脊振村 |
| 5 堤三本松遺跡 | 17 船石遺跡 | 29 塔の塚院寺跡 | 40 養原遺跡 | 52 東尾銅剣出土遺跡 | 59 西石動古墳群 |
| 6 厩形原古墳群 | 18 船石南遺跡 | 30 西前半田遺跡 | 41 姫方遺跡 | 三根町 | 60 戦場ヶ谷遺跡 |
| 7 谷渡古墳群 | 19 切通遺跡 | 31 米多城跡 | 42 姫方前方後円墳 | 52 本分貝塚 | 61 三津永田遺跡 |
| 8 堤三本柳遺跡 | 20 一本谷遺跡 | 32 前半田城跡 | 43 姫方原遺跡 | 三田川町 | 62 西石動遺跡 |
| 9 青柳古墳群 | 21 坊所一本谷遺跡 | 33 加茂環濠集落跡 | 44 ドンドン落遺跡 | 53 吉野ヶ里丘陵遺跡群 | 63 松原遺跡 |
| 10 新立古墳群 | 22 上のびゅう塚古墳 | 34 江迎城跡 | 45 町南遺跡 | 54 下中杖遺跡 | 64 辛上廃寺跡 |
| 11 厩形原遺跡 | 23 日速原古墳群 | 35 一ノ橋環濠集落跡 | 46 天神遺跡 | 55 下藤貝塚 | 65 横田遺跡 |

Fig. 1 三上遺跡8区の位置及び周辺遺跡 (1/50,000)

としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中杖遺跡³⁰⁾、吉野ヶ里町（旧東脊振村）下石動遺跡³¹⁾などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中杖遺跡、吉野ヶ里町（旧東脊振村）辛上廃寺跡³²⁾、霊仙寺跡³³⁾などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土塁跡³⁴⁾や塔の塚廃寺跡³⁵⁾などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土塁跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設＝「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土塁の東方に接する八藤丘陵の調査において、土塁東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され³⁶⁾、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の塚廃寺跡は、百済系単弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡³⁷⁾の調査などでまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前牟田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた³⁸⁾。しかし、昭和40年代後半からの圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡ともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している³⁹⁾。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

- 1) 藤瀬禎博・石橋新次 『柚比遺跡群範囲確認調査第3年次概要報告書』 鳥栖市文化財調査報告書第30集 鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・天本洋一 『姫方遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭 『検見谷遺跡』 北茂安町文化財調査報告書第2集 北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金関丈夫・坪井清足・金関恕 「佐賀県三津永田遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他 『吉野ヶ里』 佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介 『八藤遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志 「原始」『上峰村史』 上峰村 1979

- 8) 下山正一・西田民雄 「Ⅱ. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質」『佐賀平野の阿蘇4火砕流と埋没林』 上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋 「香田遺跡」『香田遺跡』 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981
- 10) 七田忠志 「佐賀県戦場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 『船石遺跡Ⅴ』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 『八藤遺跡Ⅱ・堤土塁跡Ⅱ』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998
前出 (6)
- 13) 金関丈夫・金関恕・原口正三 「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 「二塚山遺跡」『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 『一本谷遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡Ⅱ 図録編』 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988
鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡Ⅱ 本文編』 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989
原田大介 『船石遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990
原田大介 『船石遺跡Ⅳ』 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡Ⅰ』 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002
原田大介 『船石南遺跡Ⅱ』 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八藤遺跡Ⅰ』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下巧他 『姫方原遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会1976
- 21) 木下 巧・七田忠昭 「五本谷遺跡」『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 『剣塚前方後円墳』 鳥栖市文化財調査報告書第22集 鳥栖市教育委員会 1984
- 23) 前出 (2)
- 24) 松尾禎作 「目達原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 「古代国家の形成」『佐賀県史』 佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 『銚子塚』 佐賀市教育委員会1976
- 27) 松尾禎作 『佐賀県考古大観』 祐徳博物館 1959
- 28) 前出 (24)
- 29) 前出 (16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 『下中杖遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第54集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 「下石動遺跡」『下石動遺跡』 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 (6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾禎作 「東脊振村辛上廃寺跡の調査」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第5輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 『雲仙寺跡』 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・柁一義 『堤土塁跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾禎作 「塔の塚廃寺址」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出 (12)
原田大介 『八藤遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 「中世」『上峰村史』 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

Ⅱ. 調査の概要

1. 調査に至る経緯

平成26年7月31日、上峰町大字坊所字三上における共同住宅建設に係る「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が、佐賀市在籍者個人名で提出された。対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である三上遺跡の範囲内であったため、文化財保護法に基づく届出が必要である旨回答するとともに、事前の確認調査の実施に向けて関係者と協議を行った。

これを受けて、平成26年7月31日付で、佐賀県教育委員会教育長あてに文化財保護法に基づく届出が提出されたため、埋蔵文化財確認調査を行うことになった。

確認調査は、開発予定地である大字坊所字三上3180-3、3181-1の2筆、合計1,040㎡を対象に、平成26年8月8日に実施した。確認調査の結果、開発予定地の北側にピットなどが検出された。

今回の共同住宅建設工事では建物基礎工法として地盤表層改良工法が計画されており、今回の埋蔵文化財確認調査で検出された柱穴等の遺構に工事の影響が及ぶものと判断される。確認調査の結果を受けて、上峰町教育委員会は、県文化財課と今後の遺跡の取扱いについて協議を行い、当該開発区域の内、地盤表層改良工が実施される建物部分 370 ㎡について記録保存を目的とした本調査を実施することになり、残りの 670 ㎡については地下の遺構に工事の影響を与えないことを条件として現状のまま保存することとなった。

2. 調査の経過と方法

記録による遺跡の保存が必要になった370㎡について、平成26年10月1日、事業主と上峰町との間で埋蔵文化財発掘調査に係る委託契約を締結した。平成26年10月17日より重機を用い、調査員立会いの下で遺構面まで掘り下げた。表土除去完了後、平成26年10月20日から作業員の人力による遺構検出作業を行った。検出した遺構は性格別に半裁等を行い、堆積状況の観察を行った後に完掘した。完掘後必要に応じて、個々の遺構の写真撮影や実測を行った。平成26年10月27日より調査区全体を対象に縮尺1/20で詳細遺構実測作業を行った。平成26年10月30日には掘削機による調査区の埋戻しを行い、事業主に対して対象地の引き渡しを行った。

現地作業終了後、平成27年度に整理作業を実施し、報告書を作成した。

Ⅲ. 遺跡の概要

1. 遺跡の概要 (Fig. 2)

三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8m～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稻荷塚、稲荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

三上遺跡が位置する三上地区一帯は、近年開発に伴う発掘調査が部分的に行われるようになり、縄文時代から中世に及ぶ遺構が現在も地下にかなりの密度で遺存していることが明らかになった。

2. 調査の概要

今回の調査の対象となった三上遺跡 8 区は、目達原丘陵の北部、標高 16m 付近に位置している。調査区の北側、西側、南側は住宅に囲まれ、東側は畑として利用されている。調査区域の土層は、後世の耕作などによる削平を受け、層厚約 20cm の表土直下が更新世低位段丘で、いわゆる地山であり、遺構検出面となっている。

調査区は、後世の削平により遺物包含層が失われ、遺物の出土数は極めて少ない。検出された遺構は、近傍のこれまでの調査の結果から奈良時代の集落跡の一部と推測される。

開発予定地は北側に 1 棟、南側に 1 棟の計 2 棟の共同住宅が建設される予定で、中央部は共同住宅の駐車場として現状保存することになった。調査対象地区は建物建設予定地である北側部分に約 14m×12m の A 区を、南側に約 20m×12 の B 区を設定し調査を行った。

Ⅳ. 遺構

遺構については土壙と複数のピットが検出された。ここでは A 区で検出された土壙 4 基、B 区で検出された土壙 3 基について図示し、報告する。

A 区では 4 基の土壙が検出された。SK-801 は今回検出された中で最も大きく、長さが最大で 2m、幅が 1.73m になり、倒木痕と考えられる。SK-801 からは土器片が 1 点検出されている。

B 区では 3 基の土壙が検出されており、いずれも調査区の西側で検出されている。

Ⅴ. 遺物

SK-801 から土器片が 1 点検出された。小片のため図示できなかった。

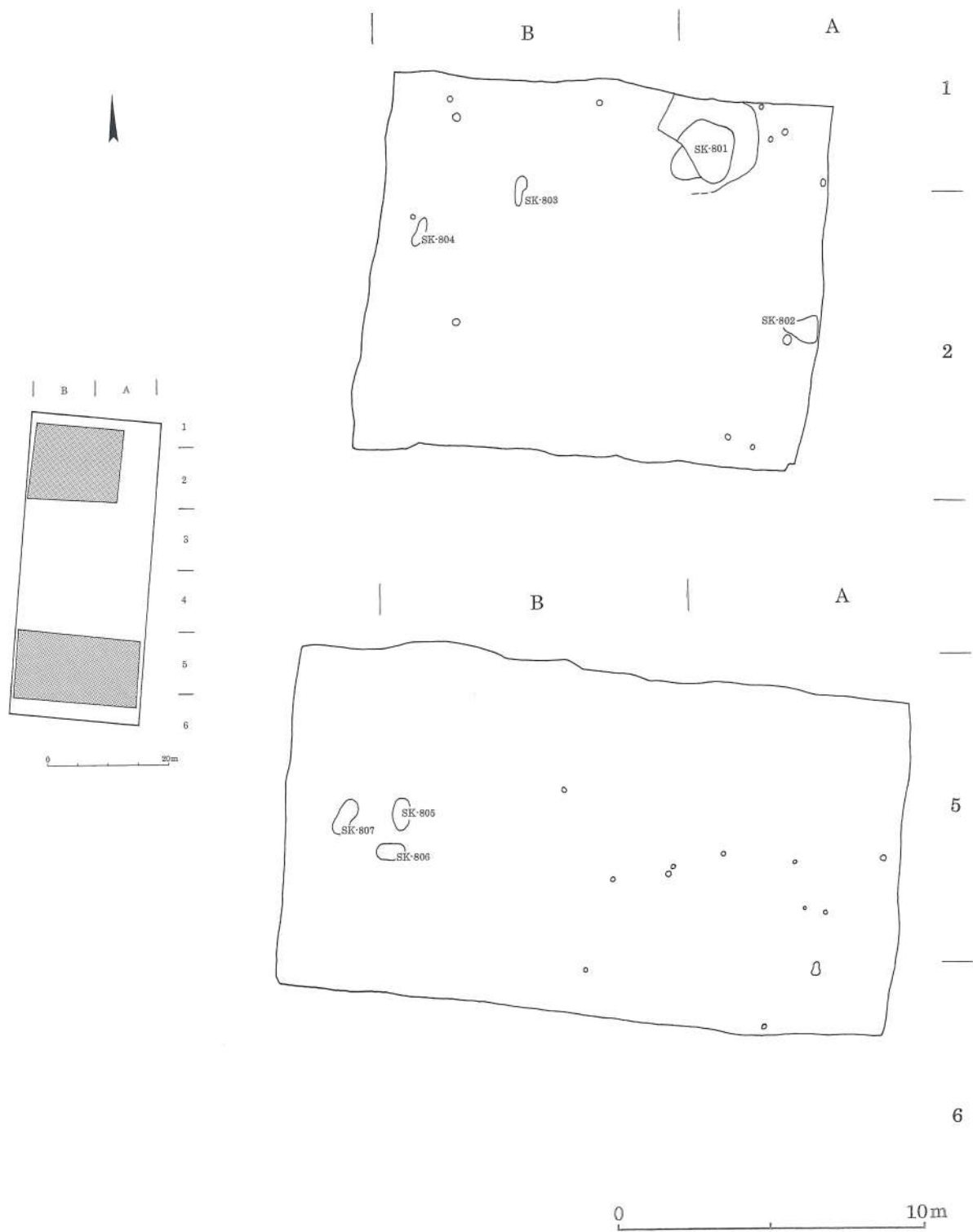


Fig. 3 三上遺跡8区 調査区配置図及び遺構配置図 (1/200)

Tab. 1 三上遺跡8区 出土土壙一覽表

遺構番号	平面形態	規模(上段…上面・下段…底面) 単位: m・m ²				出土遺物	備考
		長さ・長径	幅・短径	深さ	底面積		
SK-801	不整形	2.00	1.73	0.46	0.7	土器小片1点	
		1.06	1.00				
SK-802	不整形	1.08	0.83	0.21	0.3		
		0.94	0.34				
SK-803	不整形	1.06	0.50	0.11	0.2		
		0.92	0.32				
SK-804	不整形	0.86	0.36	0.12	0.1		
		0.80	0.25				
SK-805	不整楕円形	0.94	0.58	0.16	0.3		
		0.72	0.48				
SK-806	不整楕円形	0.86	0.63	0.24	0.1		
		0.76	0.48				
SK-807	不整形	1.06	0.53	0.09	0.4		
		0.98	0.46				

SK-801

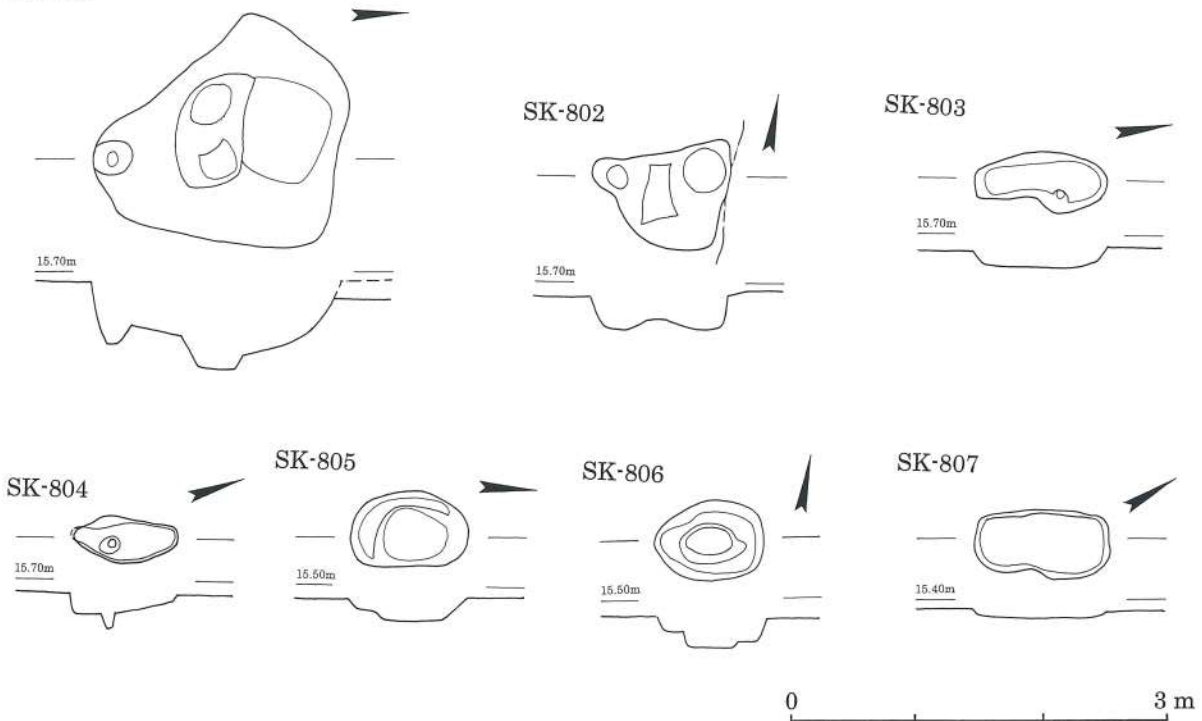


Fig. 4 三上遺跡8区 遺構実測図

VI. まとめ

今回の三上遺跡 8 区の発掘調査では、土壌やピットなどが検出されたものの、出土遺物は倒木痕と考えられる土壌 SK-801 から出土した土器小片 1 点のみにとどまっている。今回の調査区 8 区の東南東方向約 200m に位置する直近の調査箇所である三上遺跡 6 区からは奈良時代のピットや溝跡が検出されており、土師器片や須恵器片が出土している。また、周辺の確認調査においても奈良時代の土壌やピットとともに土師器や須恵器が出土している。

このような周辺の状況から、今回の調査にて検出された遺構も奈良時代の集落の一部であると推測されるが、戦時中の陸軍飛行場建設や戦後の開拓団入植時の開墾等により本来の地形がかなりの削平を受け、今回検出された土壌やピットなどは遺構の基底部がかろうじて残ったものと推測される。今回の調査は調査面積も 370 m² と狭小で、かつ出土した遺構の遺存状況もかなり構成の削平を受けていることから、今回の調査区の遺跡全体における評価については、今後の周辺地域での調査例の増加を待って検討することとしたい。



三上遺跡 8区 調査区遠景 ー南東よりー



三上遺跡 8区 A区遺構検出状況 ー南よりー



三上遺跡 8区 B区遺構検出状況 ー北よりー



三上遺跡 8区 調査終了後 ー北西よりー



1 SK-801 一南西より一

2 SK-801 土層断面 一南西より一

3 SK-802 一西より一

4 SK-803 一西より一

5 SK-804 一西より一

6 SK-805 一西より一

7 SK-806 一西より一

8 SK-807 一西より一

報 告 書 抄 録

ふりがな	みかみいせき8く							
書名	三上遺跡8区							
副書名	共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財確認調査報告書							
巻次								
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第42集							
編著者名	原田 大介 伊達 有彩							
編集機関	上峰町教育委員会							
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888							
発行年月日	2016年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′ ″	東経 ° / ′ ″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みかみいせき 三上遺跡	さがけんみやきぐん 佐賀県三養基郡 かみねまちおおあざぼうじよ 上峰町大字坊所 あごみかみ 字三上	41345		33° 19'25"	130° 25'05"	2014.10.17 ～ 2014.10.30	370	共同住宅 建設工事
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
みかみいせき 三上遺跡	集落跡	奈良・平安 時代	ピット・土壇等					



上峰町文化財調査報告書第42集

三上遺跡8区

平成28年 3月23日 印刷
平成28年 3月31日 発行

編 集 上峰町教育委員会
発 行 佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印 刷 大同印刷株式会社
佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20



